

政務活動費で購入の切手

個人の活動報告にも使用

平成23年度の政務活動費で切手を大量購入した当時の市川市議会議員10人のうち、切手で会派の会報を送ったと説明していた6人の中から、切手を個人の活動報告などの送付に使用していたとする説明がはじまっている。政務活動費の手引では、個人で作成した活動報告への支出は認められていない。切手をアンケート調査に使用したとする4人に対しては、昨年からの百条委員会で証人尋問を行うなどして調査が続いているが、会報送付に使用したとする6人に対しては、実態解明に向けた動きが昨夏以降止まったままになっている。

実態解明の動きは止まったまま

切手で会報を送付したとする6人は、旧会派・みらいに所属していた金子正氏と岩井清郎氏、荒木詩郎氏、田中幸太郎氏の現職4人と、寒川一郎氏、並木麻希氏の元職2人。6人合計で切手・ハガキ代約309万円、印刷費約33万円を政務活動費から支出し、「年頭市政報告」と題する会報を送付したとしている。6人は当初、全ての切手を会報送付に使用したと市監査委員に説明していたが、昨年6月と8月に市議会から提出を求められた説明文書で、全員が個人の活動報告などを記載または同封していたと説明を変えた。中でも田中氏と荒木氏、岩井氏の3人は、個人の活動報告の送付のみに使用した切手もあると説明している。田中氏は、平成23年度に80円切手と50円切手、1円切手を組み合わせてびつたり5万円分、同25年度には80円切手を9万5千円分、いずれも金券ショップで購入したとしているが、同23年度分の切手

は個人の活動報告の郵送代の支払いに充て、同25年度分の切手はハガキに交換して個人の活動報告に使用したと説明。本紙の取材に対して、同23年度分は会派の年頭市政報告も同封したと答えたが、議会に提出された領収書によると、その発送時期は「年頭」とはかけ離れた6月だ。荒木氏は、平成24年度と同25年度に購入した合計36万8千円分の

なお残る疑問点

印刷したとしているのは金子氏のみ。発送時期も、「年頭」の1月としているのは金子氏だけで、その他の5人は3月以降だという。6人のうち元職2人は、昨年8月に求められた2度目の説明資料を提出しなかった。現職4人は現在、本紙の取材に「この問題について議長に説明している最中なので発言は控える」と応じていない。

なお、3年間の切手・ハガキ代と関連する印刷費は、すでに全額が市に返還されている。

切手全てを、年4回の毎議会後に送っている個人の議会報告の郵送に使用したと説明。2月議会後のみ、会派の年頭市政報告も同封していたという。3年間で50万円分の切手を購入した岩井氏は詳細について説明しておらず、何枚を個人の活動報告に充てたのかは不明。そのほかの3人からは、個人の活動報告にのみ使用したとの説明はない。

会報はハガキサイズだが、切手を貼る手間が省ける官製はがきに